

令和4年5月20日

令和4年度 認定特定非営利活動法人UNE 事業計画書

I 理 念

認定特定非営利活動法人UNEは、農園芸作業などを通じ、長岡市及び周辺在住の障がい者、高齢者が人間らしく、誇りを持って自立して生活することを支援する。そして、一生安心して暮らせるユニバーサル社会の構築を目指すと共に、その社会の継続・活性化を図る。

II 方 針

1. 本年度の重点

昨年に引き続き、農福連携を通じて活動の充実・拡大を図り、多くの障がい者、生活困窮者そして高齢者が活躍できる新たなしごとの創設を目指す。

スタッフ(職員及び利用者)の適材適所の配置、そして作業指示の明確化を図り、ユニバーサルな労働環境の確立・充実に努める。

ノウフクレート、ノウフクメンバーを指標にして、事業、作業のスクラップ&ビルドを図り、経費の節減、そして売上金額及び利用者の工賃向上に努める。

認定NPOの特長を生かし、現場に適合した独自事業を立ち上げ、それに対する寄附金を募ることで、補助金、助成金への依存割合を少なくするよう取り組む。

2. 補助、助成事業

- 長岡市地域活動支援センター補助金(確定)
- 『にいがた。新テーマ型募金』新潟県共同募金会 送迎事業(確定)
- 農山漁村振興交付金 農福連携支援事業(予定)
- 赤い羽根共同募金 送迎・畑事業(予定)
- 新潟ろうきん財団 NPO等地域活動団体助成金 O a s i s Rでの活動費(予定)
- クラウドファンディング: I K U R E Y A I 9 0 8 H A U S 修繕費用手当等(予定)
- 休眠口座の活用: J A N P I A: 指定活用団体が主催し『社会的孤立の改善と地域支援ネットワークの構築』をテーマする事業に、新潟ろうきん財団: 資金分配団体が応募を予定しているため、UNEはその実行団体として応募したい。(予定)

3. 総務、労務

- 人事・労務管理のための勤怠・給与管理ソフトの導入することで事務の効率化を図る。
- 農業・加工の若手担当者の雇用。※農の雇用事業等を活用
- 障がい者雇用の1名増員。※特定求職者雇用開発助成金の活用
- 市民ボランティア：地域高齢者、障がい者、生活困窮者等の利用者の増員
(農福連携を通じての拡充：障害者就労・生活支援センター、若者サポートステーション等との協働)

III 事業実施計画

1. 地域活動支援センターUNEHAUS運営事業

農福連携を柱として、参加する障がい者及びそこに集う人たちが、安全に効率的かつ楽しく作業できるよう作業環境、段取りの充実に努め生産性と売り上げの向上を図ると共に、より多くの人たち、そして誰もが参加できる「しごと」を創設しそれを積極的に発信する。

また、気軽に集まれる施設としての環境整備に努める。具体的には、前広場へのテラス設置などを予定している。

2. 農業生産・加工事業及び販売

1) 米

管理作業を計画的・効率的に行うことで生産性・品質・収量の向上に努めると共に、食味のコンテストにも出展し旨い米づくりに努める。

近年、イノシシ等の獣害が発生しているので罠による捕獲も含め新たな対策を講じる。

2) 畑

3年前より、原信労組、連合中越、長岡市民協働センター等がOasis Rに参加して呉れ、本年度は新潟県労働金庫の周年事業のイベント開催も予定されており、いよいよこれからOasis Rが本格的に始動できる体制となった。

今年度は新潟ろうきん財団の助成事業を活用して、ながおかフードバンクの利用者も含め福祉市民体験農園としての機能を十分発揮できるよう努める。

なお、国土交通省が認定する「河川協力団体」として4月、7月そして11月のイベント時に農園周辺のゴミ拾いを実施して環境の美化に努める。

また、これまで実施してきた子ども園などのイベントも引き続き開催し、老若男女誰もが集える空間としてOasis Rを運営する。

3) 加工

①クロモジ

コロナ禍終息が見え始めた今、クロモジ商品のくろもじ茶、クロモジミスト、搾油、アロマアイテムの販売量が徐々に上昇し始めてきた。今年度は更なる生産過程の見直しを行い、生産に関わる人材の育成及び販路開拓に努める。

②大正餅

原料米の反収及び加工量の向上を目指すと共に、餅と米、どぶろくなどをセットにした商品などを考案し販売量の向上を目指す。

③梅干し

「うねの梅干」として直売所でも定着販売できるようになったので、採取量を増やすために梅を提供して貰える方々を募ると共に、調整、加工の人員配置等を再検討し、より計画的な生産と販売が出来るよう努める。

3. 農業サービス事業

誰もが気軽に携わることが出来る農福連携作業として、これまでUNEが独自に開発して来た分野であり、今後地域の農地、森林等が、後継者がいないことで改廃、放置されることが予想される今、以下の「採取事業」を積極的に拡大し、大勢の方々が参画できるような事業として発展させる。

1) くろもじ採取

これまで通り薬用飲用会社に定量出荷すると共に、近年クラフトジンなどの原料としての引き合いも出て来たので、新たな出荷先の拡大を図る。

2) 笹

昨年より、地元の高齢者の方々から、採取後の調整作業に参加して貰ったことで、数量、品質の向上が図られた。今年度もこれまで通り生笹の出荷を行うと共に、新たに細断した乾燥笹の出荷も開始する予定。

3) ヨモギ

ヨモギの出荷量は過去3年来拡大傾向にあり、今年度は栽培面積を更に20a程拡大し出荷量の向上を目指す。

4. 障がい者の仕事となりうる請負事業

1) これまで通り、造園業者、ビル管理業者、そして一般家庭等からの委託作業に積極的に

取り組むためにも市民ボランティアの増員に努める。

2) 昨年度は雪降ろし事業が計画的、そして安全かつ効率的に実施できたので、民生委員と相談しながら、登録軒数を現在の23軒から30軒を目途に増やす。

5. 農村と都市との交流事業

コロナ禍の状況を見ながらこれまで実施して来た中山間地域での生活や作業を体験するイベントを宿泊プランと合わせて行う。

6. 地域活性化事業

これまで通り北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会の事務局として、農林水産省の補助事業：農山漁村振興交付金農泊推進事業インバウンド対策事業などを活用、3月より赴任している地域おこし協力隊員と協働で地域の活性化に取り組む。

7. 農村からの情報発信事業

「うね日和」の内容及びネット（Facebook、インスタグラム、ホームページ）による情報発信の充実に努める。

また、「うね日和」の配布先についても拡大を図り、現在毎月の発行部数を900部から1,000部程までに増刷配布する。

8. 飲食事業

1) 給食

コロナ禍の終息が見え始めてきたので、より多くの来客者が気軽に来られるよう体制整備（レストラン：大広間の環境、厨房の調理環境、接客体制、メニューの見直し等）について検討し改善に努める。また、給食士の後継者育成も始める。

2) キッチンカー

①弁当、赤飯

これまでは、アオーレ長岡での月4～5回の出店だったが、昨年からはスポットで出店していたとちおのショッピングモール「トッピー」での出店も可能となったので昨年度の売上高を倍にしたい。

また、キッチンカーでの販売要員の育成に努め、新たに学校等への販路拡大も図る。

②かき氷

これまで準備不足や冷夏の影響でなかなか本格稼働できなかったが、販売先の新規開拓を図り、計画的な販売を目指す。

9. 送迎事業

新潟県共同募金会からのテーマ型募金を活用し、これまで実施してきたボランティア送迎、通院送迎、買い物送迎、給食送迎、そして温泉送迎などをより計画的、効率的に実施し、交通弱者の支援を行うことで「安心、安全に働き、楽しく暮らせる社会」の実現に努める。

10. 人材派遣事業

北荷頃・一之貝・軽井沢集落連携促進協議会に事務局長として代表理事を派遣する。

11. 農家民宿事業

食事つき宿泊客や週末(土日)の宿泊客の対応がより柔軟にできるよう人員配置について検討する。

新たにIKUREYA1908HAUSを民泊施設として申請し、UNEHAUS、KS☆HAUSとは違った客層の取り込みを目指す。

なお、新規客層の取り込みについてはIKUREYA1908HAUSを中心に農林水産省の農山漁村振興交付金インバウンド対策事業を活用して取り組む。

12. 酒類の製造販売

1) どぶろく

年間製造量1,000L、月平均、四合瓶120本の販売を目指し、どぶろく友の会会員の増員、販売小売店の開拓などに努める。

2) ワイン

6月開催予定のドイツフェストなどでの販売を行う。

13. その他事業

特になし

以上